

株式会社アルファシステムズ

# 第44期中間報告書

2015年4月1日から2015年9月30日まで





ソフトウェア開発の  
プロフェッショナルとして、  
お客様にとって  
“なくてはならない会社”を  
目指してまいります。

代表取締役社長 黒田 憲一

## Q1

第44期中間期を振り返り、  
事業環境と所感を  
お聞かせください。

現在のIT市場は金融や官公庁の分野をはじめとして、幅広い分野でIT投資が拡大基調となる良好な環境にあります。当社ではこれら金融、官公庁、流通・サービス分野の業務システムを「オープンシステム」と呼んで、積極的に拡大する戦略を採っています。当期におきましても、オープンシステム分野の拡大策が奏功しました。期を通じて受注が順調に増加した結果、好決算となりました。特に第1四半期の決算が前年同期を大きく上回って着地したのは特徴的だったと思います。

ただし、主力の通信分野では通信事業者の設備投資抑制が続き、この分野の売上高は前期に続いて減少しました。これまで通信事業者は、自ら技術開発を主導して新しい通信システムを次々と開発してきましたが、そのような取り組みも減少傾向にあると感じています。

この結果、オープンシステム分野への事業シフトが期首予想を超える速度で進みました。不慣れた領域で不採算案件を発生させないよう、リスク管理をこれまで以上に徹底していく必要があります。

オープンシステム分野は、通信システム分野に比べると桁違いに規模の大きな市場です。当社は、確かな技術力で高品質なソフトウェアを提供してい

くことにより、オープンシステム分野のさらなる拡大を図っていきます。

## Q2 オープンシステム分野への 要員シフトが順調に 進んでいるように見えます。

開発対象となるソフトウェアシステムは、オープンシステムと基幹系通信システムや組み込みシステムで全く異なります。開発に参画する場合、業種毎の専門知識や業務固有の知識、お客様固有の開発プラットフォーム・開発手法等が参入障壁となりますが、これらを克服するためには、訓練と経験、そして時間が必要になります。

一方で、「システム開発」という点では、共通して求められる能力があります。特に開発するシステムが大きなものになってくると、IT インフラ（サーバ、プラットフォーム）やバックエンドといった「ユーザから見えない部分」のシステムや大規模システム開発のノウハウ、プロジェクトマネジメント力、チームワーク、現場力といった能力が大変重要になります。これらの能力は、従来から当社がお客様に高く評価されてきた「強み」の部分であり、プロジェクトの成否を分ける重要な要素です。当社の社員がこれらの能力に長けていることは、オープンシステムへの事業シフトがスムーズに進む原動力になっていると考えています。

## Q3

### 基幹系通信システムの分野を得意としている御社が、オープンシステム分野をこれほど順調に拡大できる「強み」は社員の能力にあるわけですね。

今までも、「ローマの重装歩兵軍団」や「ときどきお助けマン」といった言葉で、組織としての力強さ、（他人が書いたプログラムを読んで直して動かすという）個人としての能力の高さを当社の強みとしてアピールしてきました。最近になり、当社の強みの要素に「プロフェッショナルとして、当たり前事がきちんとできる」ことがあげられるのではないかと思うようになりました。当社の社員は、時間を守る、嘘をつかない、といった基本的な部分でもお客様から評価を受けます。当たり前のことですが、不確定要素の多いソフトウェア開発ではこれが意外と難しい。この業界で様々な仕事に従事していると、これが当社の大きな強みであると感じる機会が少なくありません。このような能力は、入社時の教育と日々行われているOJT（現場教育）の積み重ねで培われるもので、基本を大切にしている企業文化が、お客様の信頼を得るうえで大変重要な役割を担っています。

私は、これを説明する好例として、他社が手掛けた問題プロジェクトを引き継ぎ、立て直すといった仕事をよく挙げます。ここでは、工期も多く残されていない中で、他人が作成したプログラムを短時

間で理解し、問題箇所を修正しながら開発を進めていくという、極めて高度な技術が必要になります。こうした難易度の高い仕事に対応できるのも、プロフェッショナルとして日々やるべき基本動作を徹底しているからであり、これがお客様の評価につながり、業務を拡大する要因になっています。

また技術に関して言えば、当社の社員は新しい技術に対して自ら学ぶ意欲が旺盛だと感じます。技術者にとって、自ら学び、技術獲得に貪欲であるという素養はとても大切なことです。

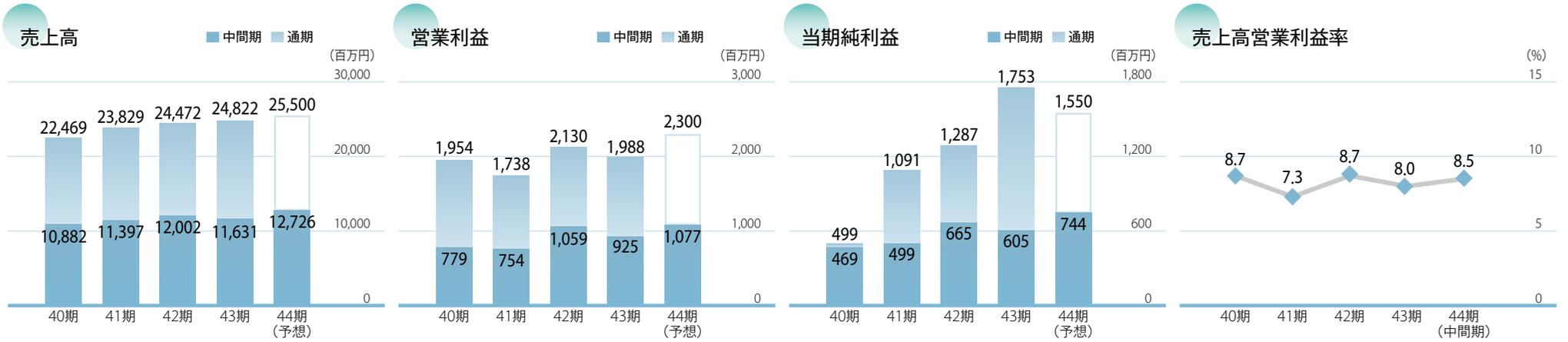
## Q4

### 最後に、株主・投資家の皆様へメッセージをお願いします。

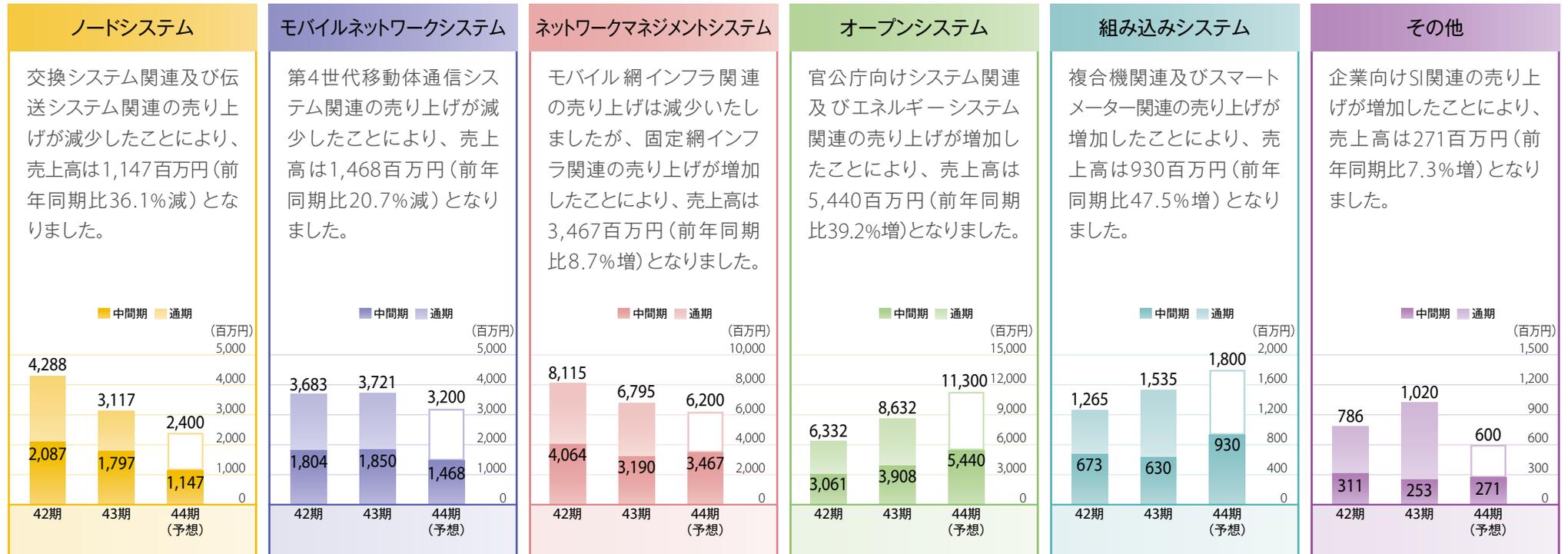
当社が開発するソフトウェアの直接の納入先は、企業・法人様であるため、皆様の社会生活の様々なシーンで当社開発のソフトウェアが動作していても、残念ながら当社の名前を目にすることはありません。それでも、皆様が生活するうえで必要不可欠なソフトウェアシステムの開発に多く携わり、日々これに貢献しています。

今後もソフトウェアシステムの開発を通じて、社会に貢献するとともに企業価値の向上に努めてまいります。株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願いいたします。

# 事業概況のご報告



## 事業区分別の概況 (売上高)



## ● 当社を取り巻く事業環境

# 良好な市場環境を追い風に、多方面へビジネスを拡大する好機

### 市場は拡大基調、開発要員不足が顕在化

金融・保険、  
官公庁をはじめ  
幅広い分野で投資拡大基調

- 日銀短観 2015年度ソフトウェア投資見通し（9月発表）は前年度比7.9%プラス
- 経済産業省特定サービス産業動態統計「情報サービス業」は25ヶ月連続で前年同月比プラス

ITへの  
対応ニーズの顕在化

- マイナンバー対応
- 金融・郵政システムの大規模更改
- 電力システム改革
- セキュリティ・サイバー攻撃対策

2015年問題

- 団塊世代の引退時期に、金融・公共分野等における相次ぐ大型プロジェクトが人手不足に拍車

### トピックス

アベノミクスによる産業の活性化（金融緩和、公共投資、民間主導）

東京オリンピックに向けたICT環境整備、サービス開発

社会システムへのICT活用拡大（高齢化社会、スマートシティ、農業）

モノのインターネット（IoT:Internet of Things）やビッグデータの潮流

人工知能、ロボット、ウェアラブルなどのイノベーションの加速

データ通信量の爆発的増加に伴う、通信インフラ増強ニーズの拡大

### 拡大基調に戻った 国内IT市場

（「特定サービス 産業動態統計  
- 情報サービス業」の売上高推移）

前年同月比で  
25ヶ月連続の増加

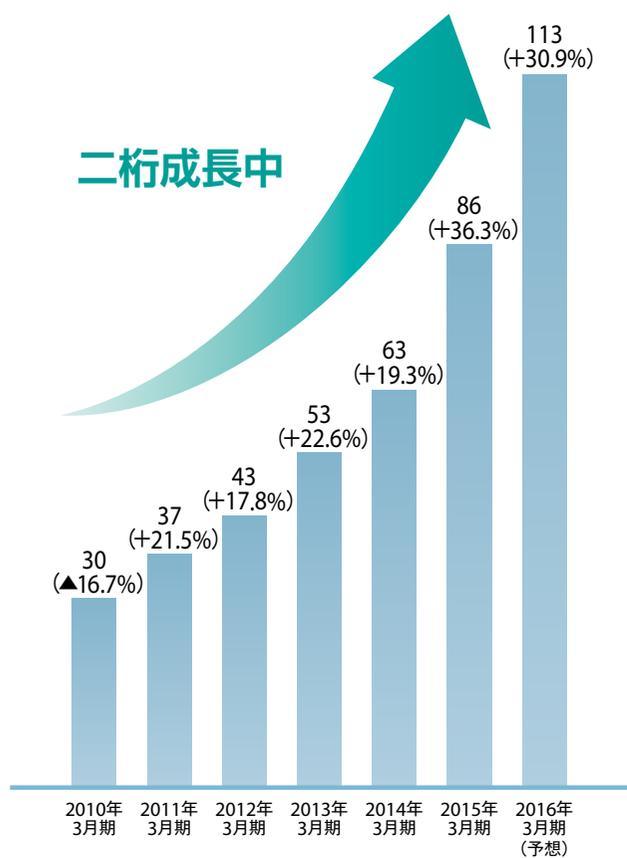


● 経営戦略：オープンシステム分野の拡大

# 事業領域を「通信」から「オープン」へシフトして業容を拡大中

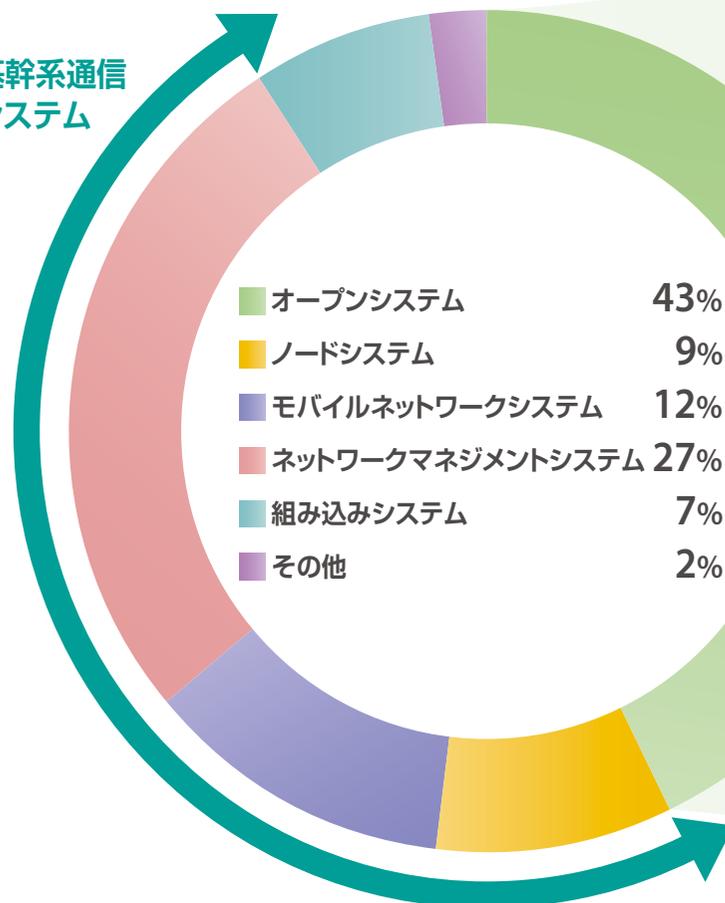
オープンシステム売上高推移 (億円)

(括弧内は前期比増減)



## 流通・サービス、金融、官公庁向けのシステム開発が拡大中

基幹系通信システム



オープンシステム分野別内訳

流通・サービス  
28%

エネルギー  
20%

官公庁  
19%

金融  
15%

製造  
5%

その他  
14%

# ● アルファシステムの製品ソリューション

2009年から販売を開始した、「V-Boot」の状況についてご紹介します。

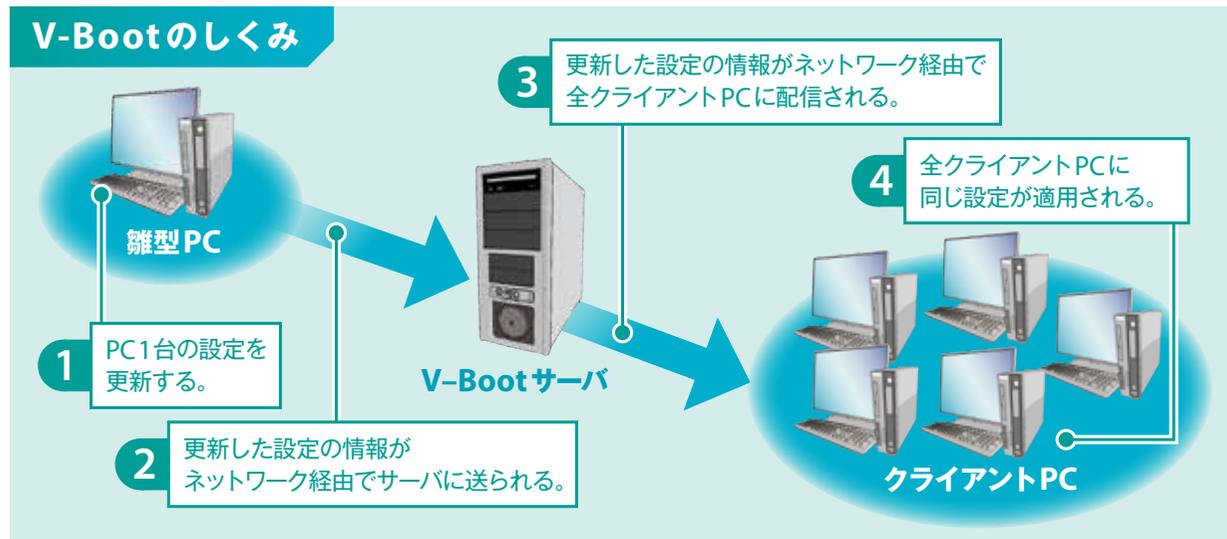
## 文教ソリューション「V-Boot (ブイブート)」

現代社会において、パソコンを使用するのが当たり前の時代となっており、教育用として小学校から大学までの各学校ではパソコンを配備した教室が整備されています。プログラミング実習や情報通信などの専門的な授業だけではなく、外国語実習や普通教科などでもパソコンが用いられており、自習用のフリースペースなどにもパソコンが置かれるようになりました。

これにより、パソコンの知識があまり無い学生もパソコンに触れる機会が増え、学校側のメンテナンスや運用のコストが年々増大するようになりました。

これを解消するため、ほぼすべての学校でパソコンを管理・運用するシステムが導入されています。

V-Bootは大学や高専、小中高校のパソコン教室の管理者を支援する「ネットブート方式のパソコン運用システム」です。競合製品の多くは海外製品ですが、V-Bootは「純国産」および「自社開発」という利点を活かし、お客様のニーズを素早く取り込み提供することで着々と導入事例を増やしています。



**V-Bootは教室管理者やパソコン利用者のこのような悩みを解決します。**

- 新しいアプリのインストールやWindowsUpdateを1台1台手動でおこなうのは大変!
- 学生が勝手に変更した設定や誤って削除してしまったファイルなどを1台1台確認しながら元に戻すのは大変!
- 何か変なところを押してパソコンが起動しなくなった。
- メンテナンスに時間がかかって終日パソコン教室が使えない。
- ネットブートだとネットワーク障害が起きると使えなくなりそうで心配。
- 貸出用のノートPCをメンテナンスのために回収するのは大変!

etc...

### ■ パソコンを配備した実習室の様子

パソコン50台を配備した実習室の実例です。すべてのパソコンは同じソフトウェアがインストールされており、セキュリティパッチも最新版が適用されています。



### ■ V-Bootの導入実績

地域	導入先(敬称略)	規模
北海道	北星学園大学、国立高専(1)	215
東北	秋田大学、東北工業大学、国立大学(4)、私立高校(1)	1,934
関東	法政大学、立教大学、筑波大学、明治大学、日本大学、明治学院大学、お茶の水女子大学、国立研究所(1)、私立大学(3)	6,413
北陸	公立高校(1)、市立高校(1)	120
東海	中部大学	221
近畿	大阪府立大学工業高等専門学校、国立大学(1)、私立大学(1)	2,830
九州	教育委員会(1)	80
合計		11,813

規模: 導入ライセンス数、( )内数値は導入先件数



## 個人投資家向け 会社説明会を開催しました

当社は、9月3日(木)、野村證券(日本橋本社ビル)におきまして、個人投資家向け会社説明会を開催いたしました。

当日は、200名を超える個人投資家にご出席いただき、当社の概要や成長戦略、株主還元などについて、その状況や方針・考えを、ご説明させていただきました。

今後も、このような「当社を知っていただく活動」をより積極的に進めてまいりますので、株主の皆様におかれましては、ますますのご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



## 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 電話：0120-232-711(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL <a href="http://www.alpha.co.jp/">http://www.alpha.co.jp/</a> (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

## お知らせ

### ご注意

- (1) 株主様の住所変更、配当金の振込みのご指定、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- (2) 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- (3) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



## 株式会社アルファシステムズ

〒211-0053 神奈川県川崎市中原区上小田中6丁目6番1号  
 本社(中原テクノセンター1号館)  
 電話：044-733-4111(代表) Fax：044-739-1100  
<http://www.alpha.co.jp/>

